

神の子ってどんな子？

今日は「花の日・子ども」の日です。毎年この日には、教会に子どもたちが与えられていることを感謝して、子どもたちの祝福を皆で祈ります。そして、子どもたちとお花を持って、くららホームという近くの施設を訪れます。残念ながら新型コロナのために、2020年度から子どもたちと一緒にくららホームに行くということはありません。今年も私と妻の二人で、くららホームの中には入らずに玄関先でホーム長に、お花と子どもたちが作ったカードをお渡ししてきました。来年度こそは子どもたちと一緒にくららホームを訪問し、中に入っておられる方々と触れ合うことができると願っています。人を癒し、笑顔にさせる子どもたちの力が施設の方々に届きますようにお祈りしている次第です。

さて、そんな今日は聖書の中からガラテヤの信徒への手紙3：26をお読みいただきました。そこにはこんな言葉が記されています。「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。」子どもたちはもちろんのこと、大人も含めて皆がイエス様に結ばれて神様の子どもとされているんだよと言うんですね。

ここで私たち自身のことを振り返ってみれば、私たちは皆良い子になろう、神様が望まれることばかりしようと思っても、ついつい悪いこと、神様が悲しむことばかりしてしまう、そんな存在です。それを教会では「罪人」と言います。けれども、そんな「罪人」である私たちを「神様、自分が罰を受けるから赦してね」と、イエス様が十字架で死なれることによって神様と仲直りさせてくださいました。私たちは皆イエス様に「贖い」と言うんだけれども、代わりに罰を受けてもらった、そして神様に赦された存在として一つに結ばれています。そして、神様にこの上なく愛されています。神様はイエス様のゆえに、私たちをそのまま御自分の子どもとして愛されるんですね。

今日の聖書箇所では、私たちは皆「神の子」だと記されていました。では、「神の子」

ってどんな子だろうと思うんですけれども、それは、イエス様のこの愛を知って、このように自分は神様から愛されている、自分が神様を愛するよりも前に神様の方から自分は愛されているということを知る人だと思います。

それだけではありません。「神の子」というのは、神様が愛してくださるように他の人を愛する人のことを言います。他の人が愛してくれるのを待つのではない。神様がそうしてくれたように、自分の方から率先して愛する人のことを言うのです。

ここでまた自分自身のことを考えてみましょう。イエス様はかつて「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」と仰られたんですけども、私たちは互いに愛し合うことにおいて、後出しじゃんけんみたいにしていないでしょうか。相手が愛してくれたなら、自分に良くしてくれるなら、そこで初めて愛する。けれども相手が愛してくれないなら、自分に嫌なことをするなら、愛さない。そんな風に相手の態度を待って、愛するか、愛さないかを決めていないでしょうか。

でも、それは神様の愛を知る人の振る舞いでは決してありません。私たちは相手の態度に依らず、自分の方から率先して目の前の人を愛していく存在です。それが、「神の子」に他なりません。

確かに、相手の態度に関係なく自分の方から愛していくというのは難しいです。そうやって愛して、愛し返してくれたなら、そして自分に良くしてくれるなら、簡単にどんどん愛してその人と仲良くなっていくことができるけれども、愛しているのに嫌なことをされたら、「いや、そんなことに関係なくそれでも愛していく」ということは難しいですね。自分でもそんなことをされたら、その人を嫌いになってしまうと思います。嫌いになるのは仕方ないのかもしれない。そこで無理やり「好きになれ」と言うつもりは私ありません。私だって無理だと思います。でも、好き嫌いは感情ですからどうしようもないけれども、「愛する」、「愛さない」は自分の意志で決められる事柄です。

大変だけれども、そして好きにはれないけれども、それでもその人を大切にしようと思ってその人を愛する行動が取れた時、神様はそのことをこの上なく喜ばれます。そして、時にはその愛によって、嫌いな人も変わってくることがあります。自分の感情に従っていたら絶対に仲良くなれなかった人とも、仲良くなれる道が開けていきます。

聖書には「神の子」という言葉について、「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」という御言葉も出てきますね。そういう風に相手の態度に関係なく、意志の力で愛することで平和を生み出していく、それが「神の子」なんです。私たち一人ひとり、そんな「神の子」としてたくさん人を愛していきましょう。そして、この世界を平和に変えていきましょう。今週も神様の御心に沿って、皆で一緒に歩んでいきたいと願います。

祈りましょう。 ——以下、祈祷——